

江崎浩司 V.エイク「笛の楽園」全曲録音プロジェクトによせて

第2回

僕とエイクと楽園と Koji Ezaki

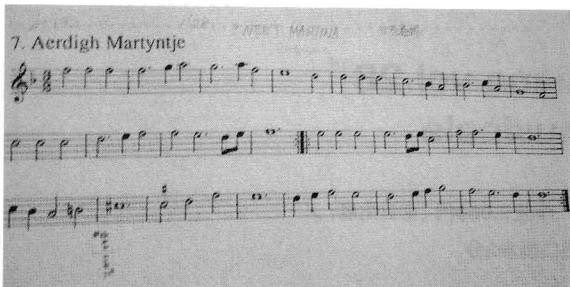
来年6月に「笛の楽園vol.1」が発売されます(3月発売でしたが録音会社の都合で6月に延期)。全150曲のうち第1~19曲までが収録され、5年に渡る全集発売の第1弾となります。大小様々なリコーダーだけではなく、オーボエの祖先ショーム、ファゴットの祖先ドゥルツィアンなども登場し、色鮮やかな「笛の楽園」となるでしょう。

さて、今回は使用するリコーダーの1つをご紹介します。録音前、どのよう

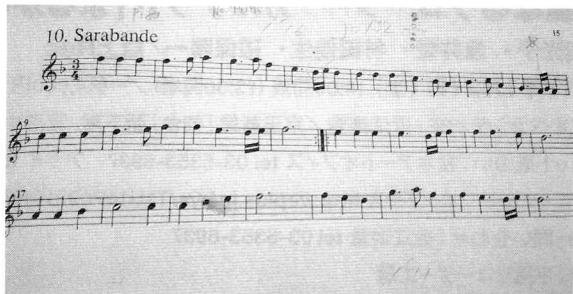


な楽器が「笛の楽園」に相応しいのかとリコーダー製作者、譜久島謙(ふくしまゆづる)様のお宅へ相談に伺いました。そこで出会ったのが彼の製作したルネサンス・アルト。吹いてみると素晴らしい音色!さっそくお借りして練習&録音、その後購入という運びになったのです。もちろんエイクの時代より前のタイプで、バロックタイプのように軽々と高音域は出せんが、笛の楽園全150曲中には演奏可能な曲があり、この楽器を含めルネサンスタイプを採用しています。運指はほぼガナッシャイプと同じで低音が充実して魅力溢れる音色。ぜひCDでその音を実感して頂ければ幸いです。第1弾のCDには第4曲詩篇118番《恵み深い主に感謝せよ》、第19曲詩篇68番《神は立ち上がり敵を散らされる》の2つの詩篇曲を演奏しました。

他の収録曲についても触れておきましょう。第7曲《かわいいマルティーナ》の原曲はフランス宮廷作曲家のE.ムリニ工作《寒さが追い払われたのを見よ》と言われ、天文の女神ウラニアを讃(たた)える内容です。その後、天使の歌から酒飲み歌まで様々な歌にこの旋律があてられました。多くの異なるタイトルも残されており、イギリスでは《ハイドパーク》と



呼ばれましたが、エイクの時代のオランダでは原曲も、《かわいいマルティーナ》という替え歌も伝わっていたと思われます。マルティーナとは当時アムステルダムの娼婦の名前で、遊女の失恋&自殺という悲しい内容の歌詞です。その曲調からアルト・ショームで吹きました。ところがその後、第10曲として



登場する《サラバンド》もほぼ同じ旋律。タイトルは違いますが、《かわいいマルティーナ》(3/2拍子)は《サラバンド》(3/4拍子)という舞曲で再登場したのです。前者の変奏は歌う感じですが、後者は原曲のタイトルを意識したのか、追い払われるかのようなオクターブ上下行のシンコペーションが器楽的です。この違いから、後者はルネサンス・ソプラノリコーダーで演奏し、快活な録音となっています。このように同じ旋律でもタイトルが違い、変奏内容も異なる曲は他にもあります。「笛の楽園」にはそういう楽しみ方もあるのです。

エイクがこの曲集にこめた思い、仕掛け、ユーモアなど可能な限りご紹介していきます。もちろんCDブックレットにはさらに詳細な情報を書いてありますので、CDを聴きながら、読みものとしても楽しんで頂けたら嬉しいです。

2016年12月 江崎浩司

江崎浩司(えざきこうじ)■プロフィール

桐朋学園大学古楽器科卒業。第10回古楽コンクール第2位。ブルージュ国際コンクール・アンサンブル部門第2位及び聴衆賞を獲得。ソロCD『海の嵐』『ヘンデル／リコーダーソナタ』がレコード芸術誌特選盤、アカデミー賞ノミネート＆朝日新聞特選盤、『テレマン／12のメトード・ディッシュ・ゾーネンVol.1&2』が2014年レコードアカデミー賞に輝く。NHK『音楽のチカラ』『音楽プラボ』『名曲アルバム』他テレビ、ラジオに出演。'10年シルク・ド・ソレイユの演奏メンバーに合格。落語とのコラボレーション作品『死神』が文化庁芸術祭ノミネート。日本初の野球オペラ『野球カンタービレ』脚本作曲指揮。ベースボール音楽家としても活躍中。〈タブラトゥーラ〉〈ラ・フォンテーヌ〉〈東京都アラベス区〉メンバー。
江崎浩司公式ホームページ <http://www.ezakikoji.com>



江崎浩司 V.エイク「笛の楽園」全曲録音プロジェクトによせて

第3回

僕とエイクと楽園と Koji Ezaki

V.エイクの《笛の楽園》全150曲のうち第1~19曲までが収録された第1弾CDが6月に発売になります。リコーダーだけではなく、オーボエの祖先ショーム、ファゴットの祖先ドゥルツィアンなども登場する、色鮮やかなCDです。

昨年9月に続き第2回録音が先日行われました。録音3日間で、1.5枚分の録音をします。つまり前回&今回でCD3枚分が録音できることになります。前回に各楽器のマイク&演奏のベスト位置を計測していたので、スムーズな録音となりました。人生初めてとなる、歩きながら吹く曲も録音しました! 詳しくはその曲のCD発売時にご紹介します。

さて発売間近、第1弾のCDから数曲ご紹介します。《笛の楽園》は各曲テーマがありモードmodoと記された変奏部分が続くカタチになっていますが、テーマが無く、エイクが自由な発想で作曲したNo.1《プレリュード》&No.16《ファンタジア&エコー》があります。No.1は曲集冒頭の指慣らし、または次のNo.2《天の父》と同じ調性なのでその序奏とも言えます。短い作品ですが、この後膨大な150曲の変奏のテクニックが凝縮された言わば「要素の塊」です。対してNo.16はしっかりと構成で、即興的というよりは確信犯的内容です。当時、オランダ作曲家J.P.スウェーリングがすでに《ファンタジア&エコー》の分野をオルガンで開拓しましたが、それに影響を受けたエイクが笛一本でその効果を發揮できるように作曲したと思われます。フルテ、ピアノを細かく指示して音空間を演出した魅力ある作品です。

No.3《美しき娘ダフネ》は人気作品ですね。綺麗なテーマに耳奪われますが、変奏部分もよく考えられています。特に最後のモード4の後半部分は細かい音符だけではなく、途中テーマも顔を出し、オクターブによる音の振り幅を印象付けて終わります。普通、最後は細かい音符を連続させてフィニッシュ!ですが、これは他曲とは一線を画す内容です。また、この曲には低いド・シャープC#が登場します。この音は曲集中でも多く登場しません。エイクの特別な思いが伝わります。

話が変わって、エイクの生きていた時代のオランダでは、絵画が発展し、静物画、風景画など傑作が残っています。No.18《オナン、またはタンネケン》はエイクが亡くなった後、1684年E.コリエー作の自画像に登場しています。《タンネケン・ヤコブ・ファン・エイク》と題された楽譜がリコーダーの下に



配置され、《笛の楽園》がエイク死後も人気を博していたとわかります。他にもエイクが反映されている絵画はありますが、大切なのは、エイクの生きていた時代を含め、この頃の文化芸術はいったいどこへ向かっていて、どうして《笛の楽園》が登場したのか。その背景も見て行く必要があるということです。国の成立、宗教、文芸、絵画…様々な方向からこの《笛の楽園》を見る、聴く、考える。全曲録音と同時に、エイクとこの時代のことをご紹介できればと思います。CDブックレットにもそれを書かせて頂き、全8枚になるCDを連続した読み物のように展開する予定です。ぜひ、その第1弾を皆様に聴いて&読んで頂けたらと思います。加えて、笛の楽園友の会・会員募集も引き続き募集しております!お気に入りの曲ナンバーにぜひご応募下さいますよう、よろしくお願ひ致します!

2017年3月 江崎浩司

江崎浩司(えざきこうじ)■プロフィール

桐朋学園大学古楽器科卒業。第10回古楽コンクール第2位。ブルージュ国際コンクール・アンサンブル部門第2位及び聴衆賞を獲得。ソロCD『海の嵐』『ヘンデル／リコーダーソナタ』がレコード芸術誌特選盤、アカデミー賞ノミネート＆朝日新聞特選盤、『テレマン／12のメトード・ディッシャ・ゾーテン Vol.1&2』が2014年レコードアカデミー賞に輝く。NHK『音楽のチカラ』『音楽プラボ』『名曲アルバム』他テレビ、ラジオに出演。「10年シルク・ド・ソレイユの演奏メンバーに合格。落語とのコラボレーション作品『死神』が文化庁芸術祭ノミネート。日本初の野球オペラ『野球カンタービレ』脚本作曲指揮。ベースボール音楽家としても活躍中。(タブラトゥーラ)〈ラ・フォンテーヌ〉(東京都アラベス区)メンバー。江崎浩司公式ホームページ <http://www.ezakikoji.com>



江崎浩司 V.エイク「笛の楽園」全曲録音プロジェクトによせて

第4回

僕とエイクと楽園と Koji Ezaki

CD『笛の楽園Vol.1／V.エイク』が好評発売中です。No.1～19の曲が収録され、様々にリコーダーおよびショーム、ドゥルツィアンが登場しています。各曲の性格にあわせて楽器を変え、音色の変化が最後まで聴き手を飽きさせない内容となっております。ぜひ皆様に聴いて頂けたら幸いです



発売記念としてミニライヴがカフェであります（写真提供：ダイニング&カフェたぶのき）。ファゴット奏者でありながら、今回はトークと打楽器、

リコーダーを担当して頂いた永谷陽子（えいたにようこ）さんと共に演しました。No.3《美しき娘ダフネ》を演奏する際、ギリシャ神話『アポロとダフネ』の話を永谷様のトークで紹介。アポロから逃げるダフネ、そしてダフネの変容が曲に反映されています。加えて永谷さんには打楽器も担当して頂き、独奏とは違った音体験になりました。No.130《かわいいシレナ》はイタリアのG.ガストルディ作の囃子歌（はやしうた）で、歌詞には必ず「ファラララ…」があります。それを打楽器で表現し、立体的な演奏になりました。また、同じ旋律ながら変奏が異なるNo.7《かわいいマルティーナ》とNo.10《サラバンド》を連続演奏。これにも打楽器を加え、江崎はショームからリコーダーへすぐ持ち替えし、キャラクターの違いを表現しました。

その翌週、自然学習センターでのライヴがありました（写真提供：埼玉県自然学習センター）。リコーダー＆キーボード演奏の横田朱乎（よこたしゅこ）さんと動植物にちなんだ曲を演奏し、スクリーンに資料を映しながらの楽しいライヴでした。



『笛の楽園』からはNo.115《ナイチンゲール》、No.120《第2クーラントまたは、可愛い小さなドロボーさん、どうしてそんなに静かなの？》の原曲《蛙のガイヤルド／J.ダウランド》、No.104《ヤギの足》（No.144にも登場）を取り上げました。

《蛙のガイヤルド》と《ヤギの足》は原曲を残しつつ面白く仕上げた江崎編曲版を演奏。因に、《ヤギの足》とは、笛の名手＆半人半獣のギリシャ神パンのことです。酒の神バッカスの従者で、酒色を好むサティロスとして表現されます。江崎も大の酒好きで、編曲には心躍るものがありました。CDには江崎編曲作品は採用されませんが、ライヴでは皆様にわかりやすく紹介するために編曲作品も盛り込みます。違った角度から『笛の楽園』を楽しんで頂ければと考えています。

CD『笛の楽園』は番号順に発売され、全151曲CD全8枚で完成です。来年から1月と6月に順次発売され2021年までかかります。その発売と平行して、江崎主催「笛の楽園、全曲ライヴ・プロジェクト」も始まります。様々なゲストを迎えて、その時の最新CDの収録曲を網羅しながら、あるテーマで括って紹介することも考えています。詩篇、様々な女性＆男性、動物、舞曲、酒飲み歌、などなど。「笛の楽園・友の会」会員様には、お選び頂いたナンバーがライヴで扱われる際、事前にお伝え＆チケット割引という特典があります。ぜひお早めの参加をお待ちしております！

現在No.20以降で募集中です。何卒よろしくお願ひ致します。

2017年6月 江崎浩司

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

江崎浩司(えざきこうじ)■プロフィール

桐朋学園大学古楽器科卒業。第10回古楽コンクール第2位。ブルージュ国際コンクール・アンサンブル部門第2位及び聴衆賞を獲得。ソロCD『海の嵐』『ヘンデル／リコーダーソナタ』がレコード芸術誌特選盤、アカデミー賞ノミネート＆朝日新聞特選盤、『テレマン／12のメトーディッシュ・ゾナーテン Vol.1&2』が2014年レコードアカデミー賞に輝く。NHK『音楽のチカラ』『音楽プラボーザ』『名曲アルバム』他テレビ、ラジオに出演。'10年シルク・ド・ソレイユの演奏メンバーに合格。落語とのコラボレーション作品『死神』が文化庁芸術祭ノミネート。日本初の野球オペラ『野球カンタービレ』脚本作曲指揮。ベースボール音楽家としても活躍中。〈タブラトゥーラ〉〈ラ・フォンテーヌ〉〈東京都アラベス区〉メンバー。

江崎浩司公式ホームページ <http://www.ezakikoji.com>



江崎浩司 V.エイク「笛の楽園」全曲録音プロジェクトによせて

第5回

僕とエイクと楽園と Koji Ezaki



CD『笛の楽園Vol.1／V.エイク』 江崎浩司

6月発売のCD『笛の楽園Vol.1／V.エイク』が多数の新聞雑誌に高評価で取り上げて頂き、朝日新聞推薦盤、レコード芸術誌特選盤に輝きました。加えてその評が嬉しいではありませんか！

「同時代の『光と影の画家』フェルメールの絵に通じるよう思えてくる」

「考証と想像が相乗。活きた演奏だ」

「単純な旋律ひとつで聴かす演奏の妙、音楽作りの充実に感嘆しつつ聴き入った。《タンネケンの変奏 第18番》など圧倒的な迫力…（中略）…本人執筆の解説文がこれまた好ましい読み物…次の第2巻待つかないではないか」

「管楽器のマルチ・インストゥルメンタリスト」というジャズのエリック・ドルフィーやローランド・カーカクを思い浮かべてしまうが、現代日本には江崎浩司がいる！…1本の笛のむこうの広大な背景を眼前に拡げてくれる。記念碑的録音の船出に乾杯！」

などなど。まだCD聴かれていない方はぜひお聴き下さい！

笛の楽園・友の会の参加も随時受け付けております。会員様の中には、亡くなったご主人の命日を番号にしてニックネームでのクレジットという方や、実家が東日本大震災の被害で無くなってしまった老舗旅館でその住所を番号にして旅館名をクレジットなど、このCDの永久的価値を兼ねて参加される方もいます。個人の思い出、記憶などもしっかり受けとめてこのプロジェクトがあると感じています。皆様のご参加お待ちしております！

話は変わって、今年2017年はマルティン・ルター宗教改革500年。音楽にも影響を与えた16世紀ドイツの宗教改革で、今年は様々なイベントが行われていますが、僕もその記念日10月31日に大分市ルーテル教会にて自作の音楽劇を行う予定です。一方、「笛の楽園」の作者V.エイクの活躍したオランダにも宗教改革の波が押し寄せますが、それはドイツのルター派ではなく、スイス&フランスを中心に改革したJ.カルヴァンによるカルヴァン派でした。同じ宗教改革でもルター派とは一線を画し、それが「笛の楽園」に多大な影響を及ぼしています。詳しくは全8枚のCD内ブックレットにて解説しますが、極めて重要なポイントです。

さて、「笛の楽園」全151曲は8枚のCDとなり、順次発売されて2021年完成予定です。そのジャケットには佐藤恵利子さんの素敵な水彩画が採用されています。全部で8枚の水彩画が揃うわけですが、次回作（Vol.2は来年2018年1月発売予定）含め全作品をまだ見ていないので本当に楽しみです。佐藤さんは札幌で水彩画を書くかたわら、リコーダーアンサンブルも楽しんでいらして、私が指導に伺っています。

さて次回発売のCD「笛の楽園Vol.2」はNo.20～36までの17曲を予定していて、No.21《から威張りBravade》、No.28《イギリスのナイチンゲールEngels Nachtegaeltje》、No.33《カムアゲインComagain》、No.36《アマリリうるわしAmarilli mia Bella》と名曲が揃います。来年1月発売をお楽しみに！

2017年9月 江崎浩司

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

江崎浩司(えざきこうじ)■プロフィール

桐朋学園大学古楽器科卒業。第10回古楽コンクール第2位。ブルージュ国際コンクール・アンサンブル部門第2位及び聴衆賞を獲得。ソロCD『海の嵐』『ヘンデル／リコーダーソナタ』がレコード芸術誌特選盤、アカデミー賞ノミネート＆朝日新聞特選盤、『テレマン／12のメトードイッシェ・ゾナーテンVol.1&2』が2014年レコードアカデミー賞に輝く。NHK『音楽のチカラ』『音楽ラボ』『名曲アルバム』他テレビ、ラジオに出演。10年シルク・ド・ソレイユの演奏メンバーに合格。落語とのコラボレーション作品『死神』が文化庁芸術祭ノミネート。日本初の野球オペラ『野球カンタービレ』脚本作曲指揮。ベースボール音楽家としても活躍中。〈タブラトゥーラ〉〈ラ・フォンテーヌ〉〈東京都アラベス区〉メンバー。昭和音楽大学非常勤講師。江崎浩司公式ホームページ <http://www.ezakikoji.com>

